

Paraquat Poisoning in Japan: A Hospital-based Survey
(J Rural Med 2007;2(1):85-92) の和文要約

日本におけるパラコート中毒～臨床例調査から

永美大志、西垣良夫、松島松翠
(佐久総合病院・健康管理部)

背景:パラコートは、その致死率の高さ、死亡数の多さから、日本および世界において、農薬中毒の中で強い関心を集めてきた。

方法:我々は日本農村医学会の会員である 102 医療施設から農薬中毒症例を収集した。その中で、パラコート暴露による症例を抽出し、検討した。

結果:パラコート中毒症例が 79 例収集され、内 71 例が自殺によるものであった。低濃度合剤(5%パラコート+7%ジクワット)による自殺例で 80%以上が死亡した。高濃度製剤(24%パラコート)では、全ての自殺例が死亡した。これらの症例の転帰は嘔下量と関連していた。1979年に Proudfoot が提案した生死予測曲線は、近年でも殆どの症例を説明した。死亡例の 80%以上が嘔下から 3 日以内に死亡していた。

要約:パラコート中毒について様々な救命方法が提案されているが、その多くが亜急性期以降の肺障害による死亡を防ぐものであり、死亡率の実効的な低下をもたらすものではない。製剤中の濃度の低減、さらには、パラコートの流通を厳しく制限するなどの措置が必要ではなかろうか。